

市民アーキビストが開くアーカイブズの未来

—NARAのソーシャルメディア戦略—

国立公文書館統括公文書専門官室公文書専門官

小原 由美子 おはら・ゆみこ

はじめに

2012年8月20日～24日、オーストラリア第3の都市ブリスベンで、国際公文書館会議 (International Council on Archives, ICA) の4年に1度の大会が開かれ、諸外国の1,000人を超えるアーカイブ関係者が一堂に会した。大会の様子は本誌48号 (平成24年11月) で特集しているので参照されたい。大会テーマは「変化の風—持続可能性、信頼、アイデンティティ」と題されていたが、基調講演や分科会における発表で最もホットな話題として取り上げられたのは、開かれた政府を推進し、ソーシャルメディアやクラウドソーシングを活用する各国公文書館の新たな戦略であった。本稿では、新技術をいち早く取り入れてアーカイブズの未来に活路を開こうとするアメリカの国立公文書記録管理院 (National Archives and Records Administration, NARA) の取組について報告したい。

1. NARA 院長の ICA 大会基調講演

ICA ブリスベン大会専門プログラムのトップを切って、デビッド・フェリエロ (David Ferriero) NARA 院長が基調講演を行った。NARA 院長は、法律上「合衆国アーキビスト (Archivist of the United States)」と規定され、上院の助言と同意の下、大統領により任命される。¹ 職員数約3,000人の独立機関 (Independent Agency) である NARA の最高責任者であり、連邦記録の廃棄承認等の重要な権限を持つ。現在は、1934年に任命された初代合衆国アーキビストから数えて10代目となるフェリエロ氏が、その地位に就

いている。2012年11月に再選されたオバマ大統領は、選挙の際、ソーシャルメディアを最大限活用したことで話題になったが、2009年にオバマ大統領に任命されたフェリエロ院長も、就任以来 NARA の業務に積極的にソーシャルメディアを取り入れ、新たなプロジェクトを始動させている。フェリエロ院長は NARA 史上初めてのライブラリアン出身の合衆国アーキビストで、米国マサチューセッツ州のノースイースタン大学で英文学を学び、シモンズ・カレッジで図書館情報学の修士号を得たのち、マサチューセッツ工科大学図書館に31年間勤務した。その後デューク大学図書館に移り5,000万ドルの資金を集めて図書館拡充プロジェクトを成功させ、ニューヨーク公共図書館ではデジタル化戦略を主導し、年間2,500万人が利用するウェブサイトを経営させた。² 学者肌というよりは、実務経験が豊かで、経営手腕に優れ、進取の気風に富んだリーダーである。

基調講演の主題は「ソーシャルメディアの世界におけるアーカイブズ」で、NARA が取り組むソーシャルメディア戦略の具体的な内容が紹介された。³ NARA は法律の規定により、連邦機関で作成された記録に関するガイダンスを策定する義務がある。⁴ 連邦機関及びホワイトハウスで、ソーシャルメディアの活用が急速に進む中、facebook や Twitter で日々やりとりされる記録が果たして法律に従って管理すべき「連邦記録」なのかどうか。NARA はすでに連邦機関宛に判断基準を示しており⁵、今後もその管理と保存について指導していかなければならない。講演の中でフェリエロ院長は、「NARA は記録に関する新技術の実験を行って、その使用の最前線に立ってみる必要が

ある。私は NARA のスタッフ自身に政府で使われている技術を使って仕事をし、アメリカ国民と対話してほしいと考えた。そしてそれは今日、ソーシャルメディアを活用することなのだ。」と述べた。NARA はこれまでも、電子文書、ウェブサイト、メール等の新メディアの記録の管理、収集、保存にいち早く取り組んできたが、現在は、ソーシャルメディアを介した記録への取組が喫緊の課題になっている。

さらに、いわゆるクラウドソーシングを活用して、これまではアーキビストが行ってきたアーカイブズ所蔵記録の整理や目録作成などの業務について、一般市民に作業してもらおう試みを進めており、市井の歴史愛好家や郷土史家、普通の人々が「市民アーキビスト (Citizen Archivist)」としてアーカイブズの業務に参加する状況が生まれている。以下、NARA が進めるソーシャルメディア戦略を詳しく見てみよう。

2. NARA のソーシャルメディア戦略

NARA 発表の 2012 年 12 月の統計によると、NARA では表 1 の 18 のソーシャルメディアを用いており、同月の NARA サイト (Archives.gov) にあるブログの月間ページビュー数は 50,994 件、facebook の月間インプレッション (表示) 数は 2,145,482 件を記録している。⁶

表 1 NARA がツールとして使用している
ソーシャルメディア一覧 (2012.12 現在)

・ Blogs	・ HistoryPin	・ Storify
・ Facebook	・ HootSuite	・ Tumblr
・ Flickr	・ IdeaScale	・ Twitter
・ Foursquare	・ iTunes U	・ Ustream
・ GitHub	・ RSS Feeds	・ Wikispaces
・ Google+	・ Scribd	・ YouTube

2010 年 12 月 8 日付の NARA ソーシャルメディア戦略は、次のように記している。「ソーシャル

メディアツールは、NARA を、そして利用者及びアメリカ国民へのサービスの在り方を変貌させる可能性をはらんでいる。NARA はより開かれた機関となるとともに、透明性、参加、協同の推進に取り組む。ソーシャルメディアツールは、政府記録を保存し人々が利用しやすいようにするという、NARA の国家のレコードキーパーとしての使命の実現を助けるものである。」⁷ここでいう透明性 (Transparency)、参加 (Participation)、協同 (Collaboration) とは、オバマ大統領が 2009 年 1 月、就任直後に発出した「透明性及び開かれた政府に関する通達」の中で述べた「開かれた政府」の三原則、政府の透明性、市民参加、官民協同に呼応している。

同戦略では、表 2 のようにソーシャルメディアを活用する 6 つの価値を挙げている。

表 2 ソーシャルメディアを活用する 6 つの
本質的価値

協同 (Collaboration)	NARA の使命遂行のための、1 つの NARA としての協同、及び市民パートナーとの協同
リーダーシップ (Leadership)	政府機関や文化団体の最先端に立つ
イニシアチブ (Initiative)	熱意にあふれ、革新的で、責任あるリーダーが集まった機関となる
多様性 (Diversity)	多様性とあらゆる意見の尊重を通じて、NARA を素晴らしい職場にする
コミュニティ (Community)	政府のコミュニティ、市民アーキビスト、及びその相互関係に気を配り、焦点を合わせる
公開性 (Openness)	NARA 本来の声を通じて開かれた NARA を作る

さらに、NARA のスタッフコミュニティ、政府のコミュニティ、市民アーキビストの 3 つのコミュニティへの働きかけを重視するとし、それぞれについて以下のような戦略を掲げた。

(1) NARA スタッフコミュニティ内のコミュニケーション及び協同の在り方の改革

- ・ 業務効率化のため職員がソーシャルメディアツールを使用できるようにする

- ・ソーシャルメディアに詳しい各分野の専門家からなる、ソーシャルメディアリーダーの組織を作る
- ・協同、専門的なネットワーク、情報及び状況更新の共有の3点について、ソーシャルメディアツールの使用を実行し奨励する

(2) 政府のコミュニティ

- ・ NARA と政府コミュニティの間の会話スペース・プラットフォームの構築
- ・ 連邦機関のレコードマネージャー、機密開示関係者、記録のアクセスに関する市民及び市民団体との、オンラインスペースやオンライン上の会話の場への参加
- ・ ソーシャルメディア記録管理のベストプラクティスの開発・公表
- ・ NARA における電子記録管理のベストプラクティスの実践

(3) 研究者及び市民アーキビストとの関係の構築及び強化

- ・ 研究者、市民アーキビスト及びその予備軍が多くの時間を費やしているオンラインスペースに参加する
- ・ NARA のリソースやサービスをより見つけやすく、共有しやすいものにする
- ・ 市民アーキビストを発見し、奨励し、認知する
- ・ 研究者及び市民アーキビストと NARA が相互に助け合うことのできる機会やプラットフォームを創造する
- ・ NARA の目録をソーシャル目録にし、NARA 所蔵資料に関する情報をオンライン化することに、市民が貢献できるようにする
- ・ 国立公文書館基金の支援を発見し、奨励し、認知する

戦略では市民アーキビストについて、飽くなき追究心をもって調査を行い、豊かな専門性を備えている、と高く評価し、次のように述べている。「皆

さんが綴る物語や原稿は、我々の国家の歴史における政府記録の重要性に光を当ててくれます。皆さんの多くは、情報の共有は当たり前と考える方々です。我々はその情報共有の精神を助長し、我々が市民アーキビストと呼んでいる研究者の皆さんを後押ししていきたいと願っています。」⁸

3. 市民アーキビストダッシュボード (Citizen Archivist Dashboard) の立ち上げ

市民アーキビストの参加の場として、2011年12月にNARAのウェブサイトに登場したのが「市民アーキビストダッシュボード」だ。⁹ダッシュボードとは、もとは自動車の計器類のことだが、「Google ダッシュボード」のように、複数の情報やサービスを集約して一覧できる機能を指す語としても使われている。

2013年2月現在、このサイトを通じて運用されているプロジェクトは、1) タグ付け 2) 文字起こし 3) 文献編集 4) アップロード&シェア 5) オールドウェザー の5つである。

1) タグ付け (Tag)

ここで言うタグ付けとは、簡単に言えば資料の目録データに情報検索のためのキーワードを付けることで、市民はユーザーネームとパスワード、



市民アーキビストダッシュボードのサイト。「いつの日か、全ての当館所蔵記録はオンライン化されるでしょう。あなたもその実現に協力しませんか。」とある。

メールアドレスの登録を行うだけで、NARAの所蔵資料について、自分が使いやすいキーワードを自由に付与できる。攻撃的な語、下品な語、特定の個人や団体を誹謗する語、一般市民の個人情報を含む語、広告・宣伝目的など当該資料に関連性の無い語などの付与は禁じられているが、難しい規則は何もない。NARAは現在、所蔵記録に関する情報を一元的に検索できる、オンラインパブリックアクセス（Online Public Access, OPA）というアクセスツールを構築中である。全面稼働すれば、現行のオンライン所蔵資料目録（Archival Research Catalog, ARC）や電子公文書館システム（Electronic Records Archives, ERA）、NARAのウェブサイトの全ページに含まれる情報などがすべて検索対象になる。OPAは、今までのアーカイブズ目録の枠組を超えた、利用者本位の発想に基づく新たな検索ツールであるが、そこでは市民が付けたタグも検索対象になる。

筆者が図書館情報学を学んだ20年前には、件名標目が資料の主題を知る手がかりであり、件名は用語が管理され、厳格なルールに従って司書やアーキビストが付与するものであったが、今世界の図書館や公文書館で試行されはじめた利用者によるタグ付けは、ほとんど制約がなく自由である。たとえば、World War II Postersと同じ意味のタグを、wwii postersと付けることもできる。こんなに誰もが自分勝手に付けてしまっただけでは収集がつかなくなるのではないかと心配になるが、多くの利用者がキーワードとして打ち込む可能性の高い、あるいは打ち込みやすい語がタグ付けされれば、それだけ利用者が求める記録にたどりつきやすくなるというメリットが重視されている。NARAだけでなく、英国の国立公文書館で開発中の新目録システム、ディスカバリー（Discovery）にも市民によるタグ付け機能があり、今や新しい目録のトレンドとなっているようである。

2) 文字起こし（Transcription）

日本の地方公文書館では古文書の解説講座が人

気であるが、NARAにも書簡など手書きの難読文書が多数ある。またタイプ打ちされているものも、その内容がデータ化されれば全文検索が可能になり、記録の利用範囲が広がる。文字起こしはスキルを持った人材と多くの時間が必要なため、これまでは敬遠されがちで、むしろ必要最低限の目録情報をより多くの未整理記録に付与して、目録公開率を上げることのほうが優先されてきた。このプロジェクトは、なかなか手がつけられなかった文字起こし作業を、市民アーキビストの手を借りて行おうという試みである。教育のための教養講座ではなく、むしろボランティア活動に近い。文書の難読度によって初級・中級・上級に分かれており、市民が誰でも文字起こしに挑戦できる。市民はNARAに雇われるわけではなく、報酬無しで自ら進んで文字起こしに貢献する。フェリエロ院長のICA大会基調講演によれば、サイトをオープンして最初の2週間で、1,000ページ分の手書き文書が文字起こしされたという。¹⁰ ウィキペディア財団が運営するウィキソース上でも、著作権の問題が無い公文書の市民による文字起こしが行われており、そこでもNARAの所蔵記録が対象になっている。このような不特定多数の市民に呼びかけた文書の文字起こしプロジェクトは、今や各国の公文書館や大学アーカイブズで行われており、1つの文書を複数の市民で文字起こしたものをマッチングすることで、誤りをできるだけ減らすなど、精度を上げる工夫が試行されている。¹¹

3) 文献編集（Edit articles）

公文書館の利用者は、所蔵資料について多くの調査を行い、祖先の物語を発見したり、学術的な論文を執筆したりしている。それらの利用者が持つ所蔵資料に関する豊富な情報を共有できないか—そんな発想で進められているページで、ウィキ技術を使って運営されている。NARAサイト内の「私たちのアーカイブズウィキ（Our Archives Wiki）」と、ウィキペディアの中のギャラリー、図書館、アーカイブズ、博物館に関する

イニシアチブ、GLAM-Wiki (Galleries, Libraries, Archives, Museums with Wikipedia) の中の NARA のプロジェクト、GLAM/NARA を利用して誰でも参加できる。NARA 所蔵資料に関する論文その他の文献情報や、利用者が複写申請を行って入手した文書等の画像の提供など、あらゆる情報の共有が図られている。

フェリエロ院長は、ウィキペディアとの連携にも積極的だ。2011年5月にNARA初のウィキペディアン・イン・レジデンス (Wikipedian in Residence) を任命した(2012年10月で任期終了)。ウィキペディアン・イン・レジデンスは、一定期間ある機関の一員として働き、ウィキペディアとの連携を促進する役割を担うもので、大英博物館やスミソニアン・アーカイブズ、ヴェルサイユ宮殿などにも置かれたことがある。¹² 2012年7月には、ウィキペディア財団が年1回開催する国際会議、ウィキマニアがNARAで開催され、フェリエロ院長が全体会で講演した。¹³

4) アップロード & シェア (Upload & Share)

写真の共有サイト Flickr を使ったプロジェクト。大統領図書館や地域分館を含むすべての NARA 施設のいずれかの閲覧室で資料を閲覧し、スキャナーやデジタルカメラ撮影で入手した NARA 所蔵資料の画像を、グループで共有することを目的としている。Flickr にアカウントを開き、画像とそのメタデータをアップロードして、National Archives Citizen Archivist Group に参加し画像を共有する。現在、31人のメンバーにより、134枚の資料画像がアップされている。¹⁴

5) オールドウェザー (Old Weather)

NARA は、米国海洋大気局 (The National Oceanic and Atmospheric Administration, NOAA) と協力して、南北戦争以前から第二次世界大戦までの、海軍、沿岸警備隊及び税関監視局の歴史的艦船の航海日誌をデジタル化し、画像を目録に公開している。市民に呼びかけてこれらの航海日誌の文字起こしを行い、過去の気象の研究

データとして研究者たちが自由に活用できるようにしようというもの。NARA 独自のプロジェクトではなく、NARA がパートナーとして参加しているオールドウェザープロジェクト (Oldweather.org) の枠組で実施されている。このプロジェクトは2010年10月にオクスフォード大学や英国情報システム合同委員会が開始し¹⁵、ズーニバース (Zooniverse) という、約79万人¹⁶の一般市民や科学者が登録している科学研究サイトで進められているものの1つである。NARA だけでなく、英国国立公文書館や英国国立海洋博物館など、航海日誌を所蔵する数々の機関が参加している。フェリエロ院長はブログで、2011年4月にNOAAが、NARAの航海日誌をデジタル化してオールドウェザープロジェクトに参画し、北太平洋北極地域の19世紀後半から20世紀初頭にかけての気象記録をデータ化しよう、という案を持ちかけてきたことに触れ、「NOAAは気象データを得、NARAはデジタル画像を手に入れる、お互いに得をする (win-win) 連携協力だ」と書いている。2012年7月から始まった画像のスキャンニングにより、2013年1月までに65,000画像がNARAの目録にアップされ¹⁷、オールドウェザープロジェクト全体で19,081ページ分の航海日誌が市民の手で文字起こしされた。¹⁸

市民アーキビストダッシュボードは、2012年のウォルター・ゲルホーン革新賞 (Walter Gellhorn Innovation Award) を受賞した。これは、行政機関の1つである合衆国行政会議 (Administrative Conference of the United States) が、2011年から政府全体のモデルとなる各機関の取組に授与している賞で、著名な米国の行政法学者の名を冠している。2011年は、NARAの一組織である官報局 (Office of Federal Register) が受賞しているので、2年連続NARAの取組が受賞したことになる。合衆国行政会議議長は、「市民アーキビストのイニシアチブは他の政府機関が見習うべきベストプラクティスである。」と称賛した。¹⁹

4. 開かれた政府の実現に向けて

ICA ブリスベン大会でフェリエロ院長が基調講演をした8月21日、プログラムの最後に、若手アーキビストとベテランアーキビストがパネリストとなって、パネルディスカッション形式で当日の基調講演やセッションで出された課題を話し合うセッションがあった。そこで会場に向かって「あなたは市民アーキビストの取組に希望を感じますか」という質問が投げかけられた。「希望を感じる」に挙手したのはやはり若い世代だ。ベテランアーキビスト(概ね40代以上?)は、インターネットを通じて不特定多数の身元のわからぬ人々がアーカイブズの業務に入り込んでくることへの警戒や、アーカイブズに対する信頼が崩れるのではないかという危惧を感じているようだった。実は筆者も、その場で「希望を感じる」に挙手できなかった1人である。だが、オールドウェザープロジェクトのような、100年分の艦船の航海日誌を世界中の市民の手でデータ化して、気象や地球環境研究に貢献する、という壮大なプロジェクトには、夢を感じずにはいられない。もちろん良

いことばかりではない。地球環境は政治問題に関わることから、外部から侵入されデータ改ざんが行われる危険性もはらんでいる。²⁰ それでも、大いにやってみる価値がある、とフェリエロ院長はじめ多くの人間が賛同したからこそ、著名な研究機関の画像提供を得て市民の手で2万ページもの文字起こしが達成された。市民アーキビストダッシュボードは、NARAの進めるソーシャルメディア戦略のほんの一部だ。YouTubeの米国国立公文書館チャンネル²¹には、何百本もの動画がアップされ、NARAサイトのブログはフェリエロ院長ブログをはじめ13種類ある。ソーシャルメディアをフル活用し、まさに「開かれたNARA」を実現しており、オバマ政権の「開かれた政府」政策にも見事に合致し、他の機関の模範と評価されている。今は筆者も、「希望を感じる」に一票を投じる方に傾きつつある。

日本のアーカイブズ界に市民アーキビストを呼び込む変化の風は吹くだろうか。国民性や様々な社会状況の違いもあり、米国と同じようには行かないだろうが、失敗を恐れず、実験してみる必要があるであろう。

¹ 合衆国法律集第44編第21章 §2103 (a)の規定による。

² NARA ホームページの紹介記事による。

<http://www.archives.gov/about/archivist/archivist-biography-ferriero.html> (アクセス: 2013年2月5日)

³ 中山貴子「第17回国際公文書館会議(ICA) ブリスベン大会について」「アーカイブズ」第48号(2012年11月)p.1-2参照。

http://www.archives.gov/about/publication/archives/pdf/acv_48_p01.pdf (アクセス: 2013年2月5日)

英文講演原稿はフェリエロ院長のブログにリンクされている。

http://blogs.archives.gov/aotus/wp-content/uploads/2012/08/BRISBANE_address.pdf

(アクセス: 2013年2月5日)

⁴ 合衆国法律集第44編第29章 §2904 (a)に「合衆国アーキビストは、連邦政府の政策と業務処理の十分で適切な文書化、および記録の適切な処分を確実にを行うため、連邦機関に対しガイダンスと援助を提供するものとする。」と定める。

<http://www.archives.gov/about/laws/records-management.html> (アクセス: 2013年2月5日)

⁵ NARAはすでに、2010年10月20日付“NARA Bulletin 2011-02”において、連邦機関の長あてにWeb.2.0及びソーシャルメディアプラットフォーム上の記録の管理についてのガイダンスを出している。 <http://www.archives.gov/records-mgmt/bulletins/2011/2011-02.html> (アクセス: 2013年2月5日)

⁶ NARA 発表 “Social Media Statistics Dashboard December 2012”による。

<http://www.archives.gov/social-media/reports/social-media-stats-fy-2013-12.pdf> (アクセス: 2013年2月5日)

⁷ NARA ソーシャルメディア戦略より。

<http://www.archives.gov/social-media/strategies/> (アクセス: 2013年2月5日)

⁸ 同上。

9 市民アーキビストダッシュボード

<http://www.archives.gov/citizen-archivist/> (アクセス：2013年2月5日)

10 既出のフェリエロ院長講演原稿 p.4 より。

http://blogs.archives.gov/aotus/wp-content/uploads/2012/08/BRISBANE_address.pdf
(アクセス：2013年2月5日)

11 アムステルダム市公文書館長が平成24年9月26日に当館を訪問され、同館のクラウドソーシングプロジェクト「たくさんの手」について説明した際の質疑応答による。

12 ウィキペディアの説明より。

http://outreach.wikimedia.org/wiki/Wikipedian_in_Residence (アクセス：2013年2月5日)

13 フェリエロ院長のブログに当日の講演のビデオがアップされている。

<http://blogs.archives.gov/aotus/?p=4298> (アクセス：2013年2月5日)

14 Flickr の National Archives Citizen Archivist Group のサイトより。

<http://www.flickr.com/groups/citizenarchivist/> (アクセス：2013年2月5日)

15 カレントアウェアネス -R 2010年10月13日付記事より。

<http://current.ndl.go.jp/node/16943> (アクセス：2013年2月5日)

16 ズーニバースのトップページに記載されている登録者数による。

<https://www.zooniverse.org/> (アクセス：2013年2月5日)

17 フェリエロ院長ブログ2013年1月18日の記事より。

<http://blogs.archives.gov/aotus/?p=4665> (アクセス：2013年2月5日)

18 オールドウェザーのHPより。

<http://www.oldweather.org/> (アクセス：2013年2月5日)

19 NARA 発表の2012年12月20日付プレスリリースより。

<http://www.archives.gov/press/press-releases/2013/nr13-35.html> (アクセス：2013年2月5日)

20 英語版ウィキペディアのオールドウェザーの項より。

http://en.wikipedia.org/wiki/Old_Weather (アクセス：2013年2月5日)

21 <http://www.youtube.com/user/usnationalarchives> (アクセス：2013年2月5日)